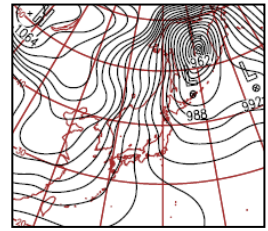


## 【12月の気象】

- ▷ 12月に入るとシベリア高気圧が勢力を強め、アリューシャン低気圧が発達し、西高東低の冬型の気圧配置となることが多くなります。このとき、北西の季節風が強まり、日本海側では雪や雨となる一方、太平洋側では晴れて空気が乾燥します。愛媛県では乾燥した晴天の日が続きますが、寒気の影響を受けると雲が多く、山地では雨や雪の降る所があります。
- ▷ 冬型の気圧配置が強まる場合は、北西の強風、大雪や低温による寒害に注意が必要です。
- ▷ 北西の季節風が関門海峡から流れ込むと、山間部を中心に雨や雪の天気となり、平地でも大雪となることがあります。
- ▷ 12月でも大雨災害が発生することがあります。2015年12月11日未明に四国を通過した低気圧に伴う大雨によって、県内では家屋の浸水や土砂崩れの被害が発生しました。



## 【気象用語】「最小湿度」「実効湿度」とは

空気の湿り具合を表す「湿度」には、いくつかの種類があります。

一般に「湿度」と呼ばれているものは、正確には「相対湿度」といい、相対湿度は水蒸気量とそのときの気温における飽和水蒸気量との比を百分率で表したものです。

一日を通して相対湿度を観測したときの最も小さい値を「最小湿度」といいます。通常の晴れた日には、多くの場合、最高気温が観測される14時～15時頃に最小湿度が観測されます。

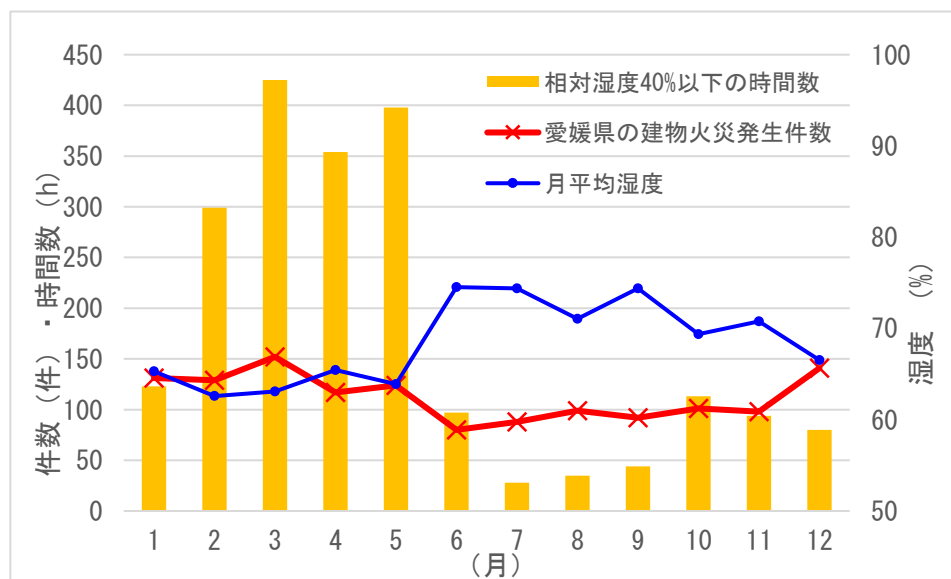
上記に加えて「実効湿度」というものがあります。この「実効湿度」とは、屋外に置かれた木材などの乾き具合（燃えやすさ）を表し、当日だけでなく過去の湿度も考慮して算出するものです（下記）。

$$\begin{aligned} \text{当日の実効湿度} &= (\text{前日の実効湿度} \times r) + (\text{当日の平均湿度} \times (1 - r)) & H_n : n \text{ 日前の平均湿度} \\ &= (1 - r) (H_0 + r H_1 + r^2 H_2 + r^3 H_3 + \dots) & r : \text{定数 } 0.7 \text{ を用いる} \end{aligned}$$

空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象状況になると予想したとき、気象台は乾燥注意報を発表して注意を呼びかけます。愛媛県では「最小湿度40%以下で実効湿度60%以下」となるときに乾燥注意報を発表します。最小湿度は火災の発生件数の指標であり、実効湿度は延焼のしやすさと関連します。これに加え、強風を伴う場合は、火災が発生・延焼する危険度が高くなりますのでさらに注意が必要です。

右のグラフは、2014～2018年の5年間に愛媛県内で起きた建物火災の発生件数、松山地方気象台で観測した月ごとの平均湿度、相対湿度40%以下の時間数を示したものです。

これから春にかけては、空気が乾燥します。特に冬は北西の季節風が強まり、火災が発生しやすい気象状況となりやすいので、火の取り扱いには十分注意してください。



※ 愛媛県の建物火災発生件数は平成26～30年版消防年報によるもの